

適正利用・エコツーリズム検討会議座長提案  
(平成28年度第2回 知床世界自然遺産地域)

2017年3月9日

エコツーリズム検討会議座長 敷田麻実

座長提案として以下の項目を提案する。なお提案はいずれも当検討会議の議事運営に関わるものであるため、部会での検討は行わず、事務局や関係者等で相談していきたい。

- (1) 発言や議論をしやすいことがエコツーリズム検討会議の特徴と存在理由であり、地理的、組織的な区分にとらわれず自由な発言を促すために、次回からワークショップ形式の座席配置とする。なお、エコツーリズム戦略検討の際には、この配置が部会で採用されていた。
- (2) 知床国立公園における今後のインバウンド振興や対外的な知床世界遺産のブランド化のために、地域の観光関係者以外の札幌や東京の観光専門家の参加を制度化する。  
(環境省の「環境省\_国立公園満喫プロジェクト」の資料添付)
- (3) 提案制度は現在、正式な「提案」と軽微な提案で部会設置なしの「承認(報告)」が行われている。そこで、提案と報告の中間の扱いの「協議」の段階を設けて、判断が付かない内容について関係者から説明し扱えるようにする。
- (4) 過去の検討が蓄積し、また経過も複雑になったので、発言データベースを運用する。  
サンプルは今回提示する。

(サンプル)

2016年9月6日	あいさつ	事務局 環境省 高瀬	平成28年度第1回知床世界自然遺産地域適正利用エコツーリズム検討会議を開催する。羅臼町長にご挨拶をお願いします。本日欠席のため、釧路自然環境事務所長より挨拶する。
2016年9月6日	あいさつ	事務局 環境省 安田	皆様ながら、羅臼町長のご都合が弊、とのことでご挨拶させて頂く。知床については国立公園であると同時に世界遺産でもあり、保護と利用が大きな課題になっている。その中でも将来に向けて持続的に活用していく事が大きな課題である。これまで実現してきたこと、今後考えていく事について皆さんに議論していきたい。
2016年9月6日	あいさつ	敷田座長	観光シーズンのピークは過ぎているが、今年北海道は天候が非常に不安定で心配が続いている。農林漁業被害及びインフラに対する被害も甚大であり、今後の不安を抱えながら本会議に出席されていることと思うが、この会議は将来にわたる重要課題を検討するため先のことと考え議論して頂きたい。この検討会議は知床世界自然遺産の管理計画に従って実施される科学委員会のワーキンググループであるが、その中のワーキンググループの専門家及び地域連絡会議の専門家が集まっている。我々専門家は専門的見地、それぞれの専門分野からの意見を述べたい。専門分野についての知見、研究や仕事上知り得たデータや判断に基づいて発言をする。一方、皆様方には現場で実際に見たことと事実を元に発言頂く。このエコツーリズム検討会議の進め方、戦略に基づいた提案もしくは報告により判断するという仕組みができてから8年が経過している。この検討会議は何かの決断が定まる場ではなく、皆様から提案があった事についてオープンな場で議論、意見を述べていく場である。そのことを改めてご確認頂きたい。なお、皆様に議論し結論を出していくプロセスにおいては、戦略にある方針及び基本的な考え方を参照頂き、発言をお願いします。ここでこの発言は基本的に皆様の考えに基づいての発言であり、所属団体の全責任を負っての発言という事を考慮する必要はない。もちろん所属団体、組織の承認を得た内容の報告や説明の際には反映されるが、基本的には個人としての意見を発言して頂き、この場で発言したことを実行せよという責任も問わない。これを強調するのは、この会議が将来にわたり実行ある決定、議論をしていきたいからである。また、この会議は議論中継する場ではなく議論を高める場である。発言の内容の批判よりも、事実の修正及び別視点での発想等を加えて発言して頂ければ、実りのある答えが出せると思うのでご協力をお願いします。
2016年9月6日	1. 実施部会からの報告 (1) 厳冬期の知床五湖エコツアー事業	知床斜里町観光協会 代田	平成27年度 厳冬期の知床五湖エコツアー事業実施報告(資料1-1①) 厳冬期の知床五湖エコツアー事業の評価について説明(資料1-1②)
2016年9月6日	1. 実施部会からの報告 (1) 厳冬期の知床五湖エコツアー事業	敷田座長	知床五湖エコツアーに関して質問・意見はあるか。



# 国立公園満喫プロジェクト推進事業

平成29年度予算（案）  
398百万円（新規）

## 事業目的・概要等

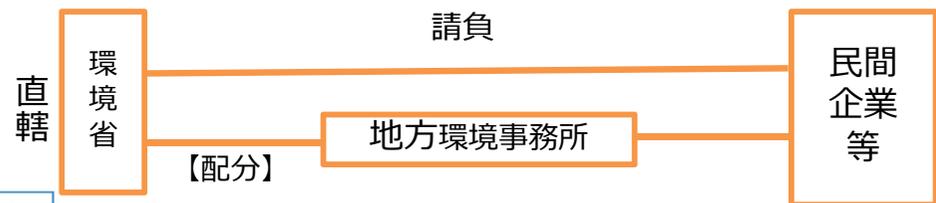
## 背景・目的

平成28年3月30日に観光ビジョン構想会議（議長：内閣総理大臣）がとりまとめた「明日の日本を支える観光ビジョン」において、『「国立公園満喫プロジェクト」として、まずは8箇所の国立公園で、「国立公園ステップアッププログラム2020」を策定し、2020年までに、外国人国立公園利用者数を年間430万人から1000万人に増やすことを目指す』ことが求められている。

## 事業概要

地域協議会を中心に、具体的な施策や事業の検討とその進捗管理及びフォローアップを行う。また、外国人向けツアーコンテンツの発掘・磨き上げ・商品化、ガイド・コーディネーター等の人材育成等や、広報戦略に基づく効果的な情報発信を行う。

## 事業スキーム



## 期待される効果

観光ビジョンに掲げられた外国人国立公園利用者数に関する数値目標（2020年までに1000万人に増やす）の達成を目指す。

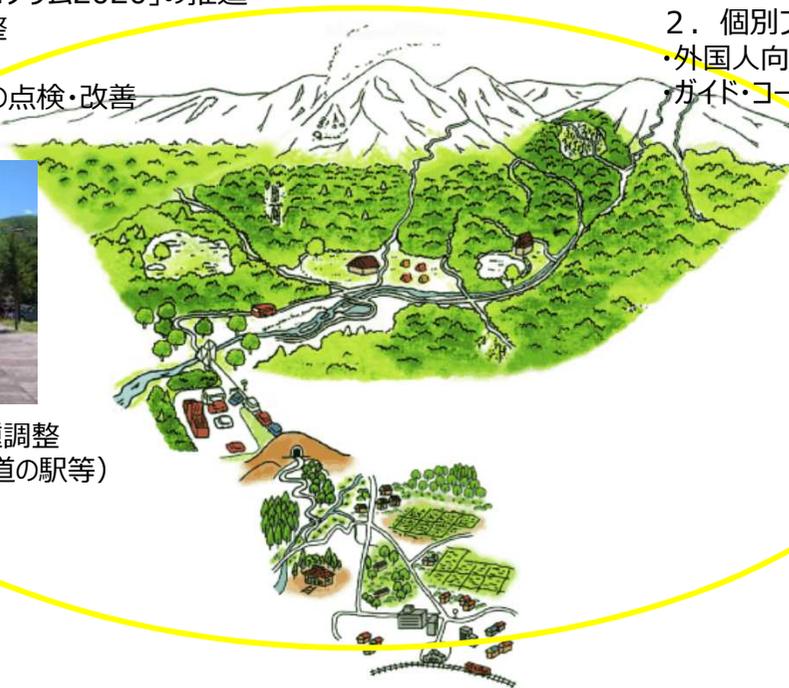
## イメージ

## 地域協議会による国立公園ステップアッププログラム2020の実施

### 地域協議会による合意形成

1. 「国立公園ステップアッププログラム2020」の推進
  - ・地域協議会の円滑な運営・調整
  - ・課題の抽出・検討
  - ・ビューポイントにおける取組状況の点検・改善
  - ・景観統一ルールの合意形成

2. 個別プログラムの実施
  - ・外国人向けツアーコンテンツの発掘・磨き上げ・商品化
  - ・ガイド・コーディネーターの育成



- ・情報提供施設の設置に係る各種調整（空港、鉄道駅、高速道路SA、道の駅等）

- ・広報戦略に基づく情報発信



### 3. フォローアップ

- 国立公園ステップアッププログラム2020の進捗管理と評価、支援及び有識者、関係省庁等との連携

### 水平展開

- 8か所の国立公園における成果を全国の国立公園に水平展開